三菱新機械室レスエレベーター“ELEPAQ-i”のユニバーサルデザイン

宮脇将志*
城戸恵美子*
松田和子**

要　旨

ユニバーサルデザインとは，年齢や障害の有無にかかわらず“だれもが使いやすい”製品作りの思想である。高齢化社会の進展や社会的弱者への理解が深まる中，様々な分野でこのユニバーサルデザインへの関心が高まっている。三菱新機械室レスエレベーター“ELEPAQ-i”は，ユニバーサルデザインを中心コンセプトとした製品である。特筆すべきユニバーサルデザインアイテムとして①側面壁取付け操作盤と②凸文字ボタンが挙げられる。

①の側面壁取付け操作盤は，従来のそで(袖)壁(扉両側)取付け操作盤に比べかご内で振り返える必要がなく，特に車いす利用者に対する操作性向上に効果がある。②の凸文字ボタンは，ボタン上の文字を浮き出させたもので，点字の読めない視覚障害者にも判読可能なユニバーサルデザインアイテムである。また同時に，判読性の高い文字書体への変更も行っている。その他にも，大型戸開ボタン／大型インジケータ／操作ボタンの低位置化など，特にインタフェース(操作表示器)における操作性の向上に取り組んでいる。

また，開発過程においてはモデルユーザーを対象としたユーザビリティワークショップ(評価実験)を繰り返し実施し，ユニバーサルデザインアイテムの効果及び製品への適用について検証を行った。

本稿では，ELEPAQ-iのユニバーサルデザインの紹介と開発過程での評価／検証について述べる。

三菱新機械室レスエレベーター“ELEPAQ-i”

ELEPAQ-iの側面壁取付け操作盤かご室(左図)と操作部(右図)を示す。ELEPAQ-iでは様々なユニバーサルデザインの考え方を取り入れ，より多くの人に使いやすい製品を目指している。

*デザイン研究所　**稲沢製作所